

藤田 真也 氏 学位審査結果の要旨

主査：木梨 達雄

副査：藺田 精昭、岡崎 和一

特発性血小板減少性紫斑病(ITP)は自己免疫的機序による血小板破壊によって引き起こされる疾患であるが、その原因や病態については不明な点が多い。藤田氏はトロンボポエチン受容体作動薬であるエルトロンボパグ(E-pag)が ITP に有効な治療薬であることから、E-pag 投与による血小板数への効果と免疫調節因子である TGF- β 1 と可溶性 CTLA-4、および抗血小板抗体の血清濃度との関連を検討した。その結果、ITP 患者を E-pag 投与群 (13 名) では未投与群(24 名)に比較して血小板数が改善し、TGF- β 1 および可溶性 CTLA-4 の有意な上昇がみられたが、抗血小板抗体については有意な変化はなかった。これらの結果から E-pag 投与によって免疫学的病態の改善が見込まれるが、免疫学的寛容にはいたっていないことが考えられた。この研究は今後の ITP 治療に有用な情報を与え、学位に充分値すると判断された。